

平成29年度 予算のお知らせ

健康保険

経常収支で約4億9千万円の大幅な赤字予算となりました

● 予算編成の背景

日本では平成19年に高齢化率(65歳以上割合)が21%を超え超高齢社会へと突入し、現在もお上昇を続けています。医療費(概算)は、13年連続で過去最高を更新し、平成27年度に初めて41兆円を突破しました。

高齢者の医療費は、高齢者本人の保険料と公費だけでは賄うことができないため、現役世代がその費用の一部を負担しています。そのうち後期高齢者支援金は、当初は加入する人数に応じて健保組合へ負担が課されていましたが、平成27年度から各健保組合の総報酬額に応じて負担するしくみが段階的に導入されてきました。このしくみを総報酬割といい、平成29年度は全面的に総報酬割となりました。結果、比較的收入水準の高い被保険者を抱える健保組合の負担は大幅に増加しています。

世界に誇る国民皆保険制度を維持するためには、現役世代の負担軽減が不可欠です。公平かつ納得性のある制度へ、改革の早期実現が求められます。

● 予算の概要

当健保組合の平成29年度予算は、総額54億

4,669万円、実質的な収支状況を示す経常収支で4億9,373万円の赤字を計上する非常に厳しい編成となりました。

主な収入は、皆さまと事業主に納めていただく保険料で、47億5,926万円を見込んでいます。一方、主な支出は、皆さまの医療費に充てられる保険給付費24億5,735万円(前年度比1億3,158万円増)と、高齢者医療を支えるために高齢者医療制度へ支払う納付金23億5,186万円(同1億3,393万円増)となる見込みです。これら2つの支出だけで保険料を超えてしまう見通しです。収入の不足分は、前年度決算からの繰越金1億5,000万円および別途積立金等からの繰入金4億2,717万円で補填することとしました。

当健保組合では、引き続き事務経費の節減に努めるほか、医療費適正化のため被扶養者の資格確認や医療機関等からの請求のチェック強化、ジェネリック医薬品の使用促進などを推進してまいります。また、平成30年度からの第2期データヘルス計画の策定に向け各種事業の効率化を行い、中長期的な医療費の節減に努めてまいります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

介護保険

健保組合では、40～64歳の被保険者(介護保険第2号被保険者)から介護保険料を国に代わって徴収し、国に納付しております。

平成29年度は、介護納付金4億6,947万円に対し、介護保険収入は4億2,637万円となる見込みです。収入の不足分は繰入金5,000万円で補填します。

収入

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護保険収入	426,368	96,902
繰入金	50,000	11,364
国庫補助金受入	1	-
雑収入	2	-
合計	476,371	108,266

支出

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護納付金	469,468	106,697
介護保険料還付金	1,306	297
積立金	5,597	1,272
合計	476,371	108,266

平成29年度 収入支出予算総額 54億4,669万2千円

※ () 内は「被保険者1人当たり額」

